

吉本隆明と「二つの敗戦」



[新装増補版]

とよだ もとゆき

吉本隆明と「二つの敗戦」[新装増補版]

四六判、ペーパーバック、218 ページ、1,850 円 (税別)

NextPublishing Authors Press 刊 購入は amazon から

2013 年刊『吉本隆明と「二つの敗戦」』(脈発行所刊)の絶版品切れを受け、[新装増補版]

“戦後最大の思想家”と呼ばれる吉本隆明。

彼は「二つの敗戦」を体験した。

ひとつは、二十歳のときに、太平洋戦争の敗戦。この「第一の敗戦」は、近代戦のなかでの敗戦だった。

もうひとつは、晩年の今世紀初頭に迎えた敗戦。貧困、格差社会、親の子殺し、子の親殺し、集団自殺、心の病い……彼は時代の病いを鋭く受けとめ、「第二の敗戦期」と呼んだ。福島第一原発の事故がこれに迫りうちをかける。それは、近代を極めた現代の敗戦にほかならない。

晩年の「第二の敗戦期」、吉本さんは明らかに引き裂かれていた。それゆえ、意外な慨嘆を率直に遺した。

いったい、晩年の彼に何が起っていたのか。

彼の「引き裂かれ」を直視し、遺言(「存在の倫理」)を真摯に受けとめることが、「第二の敗戦」(近現代の敗戦)から歩みを進める前提になるはずだ。

青春時代の不気味な予言

谷中銀座の庶民・吉本隆明

「大衆の原像」というOSとその危機

「関係の絶対性」と「観念の相対性」

原発と「科学の進歩」

ハイ・イメージ論とインターネット

ハイデガーと吉本の技術論

「史観の拡張」は実を結んだか

晩年漏らした率直で意外な慨嘆

「存在の倫理」と贈与

【新装増補版への追補】

「吉本隆明と小林秀雄」

「谷川雁と吉本隆明」

モノクロ写真(谷中銀座、初音小路)

【目次】

新装増補版 はしがき

序 「二つの敗戦」に直面して

1 「第一の敗戦」でつかんだこと

2 なぜ「反・脱原発」を批判したのか

3 軋みと危機

4 「第二の敗戦」で問われていること

5 「存在の倫理」から「贈与存在の倫理」へ

[補] 谷川雁と吉本隆明

[補] 吉本隆明と小林秀雄

新装増補版 あとがき

[資料] 吉本隆明の言葉と略年譜

豊田企画制作舎 toyodasha@yahoo.co.jp